
獣なオレと、魔王少女のぶらりラブラブ二人旅

天水紫苑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

獣なオレと、魔王少女のぶらりラブラブ二人旅

【Nコード】

N8661X

【作者名】

天水紫苑

【あらすじ】

Trinity・Online。今時ありふれたMMORPGで、爆発的な人気というわけでもないオンラインゲームに、はまっている主人公、桜井真は、ある日ゲームの世界に迷い込んでしまう。しかもその直後に魔王と出会い、一緒に旅をすることに！？ 更に行く先々で変態やらバカやらが仲間になってさあ大変！ 一体真はどうなってしまうのか！？ 基本ほのぼので、お馬鹿な話です。

ブログ（前書き）

軽いノリで書くつもりなので、皆さんも軽いノリで読んじゃって下さい。

更新は不定期ですので。

プロローグ

「兄さん！ 姉さんが苛めるよー！」

パソコンの画面から目を離さず、妹がオレに助けを求めてくる。泣き言を言っている割には、相変わらず指が高速で動き続けている。かくいうオレも画面から目を離さない。今は一人で高レベルの魔物と戦っているため、妹に構っている暇がないのだ。

「ふふふ、可愛い……。もっと苛めたくなっちゃう」

妹が喚き散らしている原因である姉さんは、妖しい笑みを浮かべながらキーボードを叩き続ける。

画面は見えないが、恐らく姉さんが妹に攻撃を仕掛けまくっているのだろう。

さっきは二人でパーティ組んで魔王を倒しに行くとか言っていたが、どうやら姉さんの発作と言っても差し支えない悪い癖が出てしまったようだ。

「姉さん！ 魔王来るよー！ 触手で動きを封じるのやめてよー！」

「うふふ、ちよつとだけ、ちよつとだけだから」

「ほら！ ほら！ 来る！ 来ちゃうううー！！ ああああ

ああーッッ！！」

「あら、早いわね。もう少し我慢出来なかったの？」

声だけを聞けば、なんとも厭らしいのだが、やっていることは姉さんが触手で妹を縛り付けて魔王にタコ殴りにさせた、という、Sにもほどがある行為だ。

俺たち兄妹は何度この姉に辱められただろうか？
思い出すときりが無い。

「うう、姉さんの鬼畜！ サディスト！ 変態！」

「ごめんねえ、舞ちゃん、私今魔王の相手が忙しいのよお」

「だったら協力しようよ!？」

表情を見ることは出来ないが、妹の舞は、涙目で姉さんを睨んでいるのだろう。

しかし、中学二年生のロリロリな舞に睨まれても、全く怖くない。

逆に可愛らしいくらいだ。……やばっ！ ブレス喰らった！

「クソ！ ダメージ喰らうと回復してる余裕がねえ！」

「あ、じゃあ私が援護しに行くよ」

「うふ、じゃあ姉さんも行くこうかしら」

「もう終わったの!? ていうか一人で勝てるなら私を誘わないでよー！」

「それじゃあつまらないじゃない」

この二人が加勢に来て逆にも逆にピンチになりそうだな。

言い合ってる間に終わらせちゃうか！

そう考えてオレは目を閉じる。恐らくごりごりHPが削られている

のだが、オレのキャラが力尽きるよりも早く、来る！

オレは目を瞑ったまま、さきほどとは比べものにならない速さでキーボードを叩き始める。

「出た！ 兄さんの集中モード！」

「あら、そんなに焦らなくても助けに行くのにい」

お願いだから来ないでくれ！

オレは心の中で懇願しながらも、高速のタイピングを止めない。画面は当然見えていない。しかしまったく問題ない。

なぜなら、敵の行動パターンを完全に把握しているから。

さっきまで集中モードに入らなかったのは、行動パターンを記憶するためだ。

そのまま数分キーボードを叩き続け、舞に現状を尋ねる。

「舞、今魔物はどうなってる？」

「もう死んでるよ。兄さんのキャラが一人で動き続けてる」

「じゃあ早く教えるよ！！」

オレは勢いよく目を開き、画面を確認する。

その画面上には、HPが0になり、仰向けになって地面に落ちている、ドラゴンが映っていた。

オレはそれだけ確認すると、もう一度目を閉じた。

集中モード。これは極限まで集中力を高めている状態であり、この

状態から元に戻ると、集中モードになっていた時間の倍の時間眠ってしまふ。

正直、そんな漫画やラノベみたいな設定あり？　と言いたくなるが、真実だからしょうがない。

そんなわけで、今から十数分眠ることになる。

集中モードの欠点としては、姉と二人きりの時に使ってはいけないということだ。

理由は簡単、オレが寝ている間に貞操を奪おうと襲いかかってくるからだ。

それを死守してくれるのが、舞だ。

集中モードからの睡眠に入った時、オレはなにがあっても目覚めない。

しかし、普通に睡眠を取っている時は、不穏な気配にとっても敏感だ。

つまり、オレが言いたいことは、姉さんには気を付けろってことだ。街で偶然目が合ったら全力で逃げる。一瞬で服がなくなっている可能性があるぞ。

肩がぶつかってしまったら土下座して謝れ。翌日には社会的に死ぬことになるぞ。

そろそろ限界だ。

オレは深い眠りにつく。

舞、後のことは頼んだぞ……。

「……………み……………は……………れ……………?」

声が聞こえる。

舞だろうか？ 今回も姉さんから守ってくれたんだな。

よしよし、チョコレートパフェでもおご　　ぶふえらあ!!

「ごほうあつ！　ゲホゲホツ！　な、なんだ!？」

「君は誰って聞いているじゃん!」

腹に走った鈍い痛み飛び起き、驚いて辺りを見回すと、舞と同じくらいの大サイズの少女が、涙目で頬を膨らませながら上目遣いでオレを睨んでいた。

あれ？　なんか心臓がドキドキしてるよ。まさかこれが……………、恋？

「んなわけあるかあ!!　いきなり腹に攻撃するとはどういうつもりだあ!？」

「だ、だって、私のことを無視して居眠りなんて、ば、万死に……………
うう……………うわああああああ……………
……………ん!」

なんか物語なんかに出てくるお嬢様みたいなことを言おうとしたが、最後まで言う前にいきなり泣き出した。
オレのせいかな!? オレが怒鳴ったせいかな!?

「わ、悪かった! オレが悪かったから泣き止んでくれ! あ、そうだ、飴玉が……は?」

「ぐしゅ……ぐす……どうしたの……?」

いやいや、勘弁して下さいよ、マジで。

ポケットに入れておいた飴玉を取り出そうと、ポケットを探ろうとしたら、服を着ていなかった。

いや、この燃えるように紅いふさふさした毛を服だというのなら、オレは全身に服を着ている。

簡単に言えば、オレは毛だらけだった。というか、鳥だった。でっかくて紅い鳥だった。

うん、ていうか、オレが使っていたキャラクターの、幻獣種、不死鳥^{クヌ}だった。

「ね、ねえ、君は誰? 私は魔王のセシリアっていうんだ!」

「ま……、魔王……?」

オレは錆びた機械のように、ギチギチと首を動かし、自称魔王の少女を凝視する。

は、はは、魔王って言うアレか? さっき姉さんが倒した?

うそだろ

そつえば舞のキャラも魔王だったなー。

あはは、魔王が魔王を倒しに行くって、仲間割れかよー。

「これは夢だー!!」

「え!? どうしたの!？」

紅の翼で自分の顔を叩いてみたが、痛い。超痛い。ああ、これは現実なんだ……。

オレは本当に、Trinity・Onlineの世界に来てしまったんだ……。

1 基本から（前書き）

書き溜めは一応ここで終わりです。

ここからは本当に不定期です。

1 基本から

Trinity・Online。今時ありふれたMMO-RPGだ。三年くらい前からあるゲームで、新しいわけでもないし、特別メジャーな会社が出したわけでもないことから、現在は爆発的な人気というわけでもない。

それでもそれなりに登録しているユーザーはいるし、どっぷりはまっつてしまったオレとしては、Trinity・Onlineは面白い。

このゲームの特徴としては、自由度が高いということと、選択出来るキャラクターの種族が珍しいことだろう。

珍しいというか、おかしい。

人間やエルフなんかはあるし、ドワーフやらホビット、犬人や蛇人と、様々だ。

そして、魔物と獣、という選択肢もある。

人間系や魔物系、獣系、全てに共通しているのは、最初から強い種族は選べないということだ。

魔物系なんかでは、スライムやら、ゾンビやら、弱い魔物から始まる。

人間系や獣系も同じように、最初は弱い種族から始まるのだ。

一度目のレベルの上限は100であり、100レベルまで到達すると、『転生』を果たすことが出来る。

この転生を繰り返し、上位の種族になっていくのだ。

転生すると、レベルは1に戻るが、ステータスは変わらない。
つまりは、転生する度に強くなると言っているのだ。

二回目のレベルの上限は110、三回目は120、四回目は130、
といった感じで上限も増えていく。

しかし、転生出来る回数は種族によって異なる。

人間系などは、成長がそれなりに早い代わりに、転生可能回数が少
なめに設定されている。

それに対し、成長がとんでもなく遅い魔物系や獣系は、転生可能回
数が最大に設定されていることが多い。

このゲームの最大転生可能回数は九回で、オレはその種族を選んだ。
そのせいで強くなるのにめっちゃくちや時間が掛かったが、その辺は
舞や姉さんと協力しながら補っていた。

現在のオレは転生回数は九回であり、最近ようやく最後の転生を果
たしたところだ。

最初は小鳥のような獣から始まったオレのキャラも、今では不死鳥
にまでなった。

ちなみに、オレの今のレベルは12レベルで、総合レベルは127
2、と見せかけて、実は1322だ。

総合レベルというのは今までに上げたレベルも含めてモノで、総合
レベルは最大で1500まである。

単純計算では、九回転生して完全にレベルを上げて、1450レ
ベルにしかならないのだが、ある特別なクエストをこなすことによ
り、上限値を上げられるのだ。

クエストの数は50個であり、一つクリアすることに上限値が1上がる。

ちなみにこの上限値の拡大は、一度転生すると消滅する。

例えば、一度も転生しないでクエストを一つクリアした場合の上限値は101になるが、一度転生して、二度目を始めると、110になるということだ。

こうすることにより、上限値の拡大は50だけで止まるようになっている。

オレや舞や姉さんは、とくにこのクエストを全てクリアしている。だから本来の総合レベルよりも、50レベルが高いのだ。

よくわからなかったら、とにかく普通よりレベルが50高いと思ってくればいい。

さて、そうはいつても、魔物系や獣系の成長が遅いだけで転生可能回数が高いというのは不公平だと思うだろうか？

しかし、魔物系や獣系の不利な点はそれだけじゃないんだ。

まず第一に、魔物系と獣系は、街に入れない。

人間化することで入れる奴もいるんだが、基本的に街には入れない。

更に、このゲームでは圧倒的に人間系のプレイヤーが多いのだが、プレイヤー同士の戦闘は原則で禁止になっている。

それが一時的に解除されるイベントもあるが、基本的にはプレイヤー殺しは違反行為だ。

しかし、相手が魔物系か獣系であった場合、攻撃することが許されている。

それは魔物系や獣系からでも攻撃出来るのだから、公平だと思うかもしれないが、実際は違う。人間系の方が圧倒的に多いのだから、集団で襲われる可能性もあるのだ。

しかも、プレイヤーの魔物や獣は経験値が高い。ゆえに、結構狙われることもあるのだ。

まあそんなわけで、魔物や獣は色々不利な分、最終的にはかなり強くなるってわけだ。

オレなんかは人間化出来るから、不利なところも少ないんだけどな。

豆知識として、魔物系は九回の転生を果たすことにより、魔王になれるのだが、それとは無関係に、『魔王』というランクの敵がいる。Trinity・Onlineでは、魔王は唯一無二のモノではなく、魔物の強さを表す称号に過ぎないのだ。

つまり、オレが出会ってしまった自称魔王のセシリアが、本当に魔王だとしても、それは強さを表しているだけにすぎず、悪い奴なのかはわからない。

「ああ、悪い奴なのかはわからないさ……」

「うん？ どうかしたの？ シン？」

ただどなんでオレが面倒みなきゃならないんだ！？

オレはこの世界のことを知ろうと思って、少し旅をすることにしたんだよ。

もしかしたら帰る方法が見つかるかもしれないし。

そしたらセシリアが付いて来ちゃいました、はい。

現在はセシリアを背中に乗せて、空を飛んでおります、はい。
ついて来ちゃったモノはしょうがないと割り切り、こうしてまったりと二人で旅をすることになった。

「ねえねえ、シン！ 私、人間の街に行ってみたいよ！」

「はいはい、人が多ければ情報も集まるしなー」

こうしてオレ、桜井真と、自称魔王なセシリアの、長い長い旅が始まったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8661x/>

獣なオレと、魔王少女のぶらりラブラブ二人旅

2011年11月13日13時51分発行